



置戸造材の歴史

造材1号諸説



明治44年創業の岡崎挽材工場

置戸で最初に造材を行ったのは、明治43年に野付牛の川村運治が線路の沢において初の造材事業を実施、同年秋田で十勝の三島組が鋸床材であるクルミの造材を行ったというのが定説です。

しかし、一説では同38年頃、小樽の三村三次郎が川向で造材を実施したという説もあるので、置戸の造材第1号は定かではありません。また、同43年陸別まで汽車に乗り、置戸まで歩いてきたという鈴木大三は、黒沢庄太郎経営の下駄工場ですぐ働いたというから、その頃すでに創業していたこととなります。鈴木大三は「黒沢下駄工場のあった市街東2丁目付近は、野付牛郵便局長品田虎次郎の所有地で、現在の川向付近一帯は柳が一面に茂っており、これを伐採して材料とした」と語っていました。もし三村が第1号でないとすれば工場建設前に原木を集めたでしょうから、黒沢が最初という可能性もあります。このほか明治末期、中置戸で桑島経木工場設立の記録もあります。造材第一号はともかくとして、同44年9月の網走本線開通によって、常呂川上流の木材資源が注目を浴び、各地から実業家が進出してきました。

同年6月には現在の宮下に岡崎豊吉が平野鈴太

郎の土地を買収して動力機65馬力の岡崎挽材工場を建てて創業、前後して川合経木工場も操業を開始しました。同45年には札幌の伊藤亀太郎が平野鈴太郎の持っていた北置戸の貸下地を3,300円で買収、大正元年から2年にかけて造材を開始しました。同2年には帯広の本名宗三郎が元北農木材近くにタービン水車32馬力を据付け創業を開始、さらに上置戸で下村管治が川合経木曲輪工場を継承、峰村教平が中置戸の桑島経木工場の跡を引き受け、タービン水車50馬力を据付け峰村電気製材合名会社を創業しています。この年には拓殖で数井造材と野付牛の鈴木浩気、田付では米田岩吉が野付牛の姫野近喜の下請造材をそれぞれ開始、前後して秋田皆川工場が経木工場を操業しています。同3年には伊藤亀太郎が平野鈴太郎と野付牛の鈴木浩気の土地で、置戸駅裏に74馬力の原動力を入れ伊藤木工場を操業、この年内田三之助が仁居常呂で造材を行っています。同4年は浅利正を工場主に置戸製材合資会社が伊藤木工場横に建ち、原動力は、120馬力置戸では1番大きい工場でした。

(参照『置戸町史上巻』 ※文中人名敬称略)

新たに置戸町に
来た方を紹介する

みなさんこんにちは



ほんだ たけひろ
本田 健裕 さん

置戸中学校教頭

【前任地は】小清水中学校
【出身は】熊本県生まれで神奈川育ち
【ご家族は】北見市に妻と4人の子供

【趣味は】柔道、釣り、読書

【皆さんへ一言】町内のイベントでPTAや地域の方がまちづくりに参画していることに感動しました。生徒を町の皆さんと一緒に育てていきたいのでどうぞよろしくをお願いします。



てらもと しおり
寺本 栞里 さん

こどもセンターどんぐり
保育士

【出身は】北見市生まれで北見の専門学校を卒業
【ご家族は】両親と妹
【休日は】友達とカフェに

【なぜこの仕事に】幼稚園の担任の先生に憧れて小学校1年生の時から幼稚園の先生になりたいと思っていました。

【皆さんへ一言】明るく、元気な先生を目指して頑張りますので皆さんよろしくをお願いします。